



アスパラガス半促成長期どり栽培

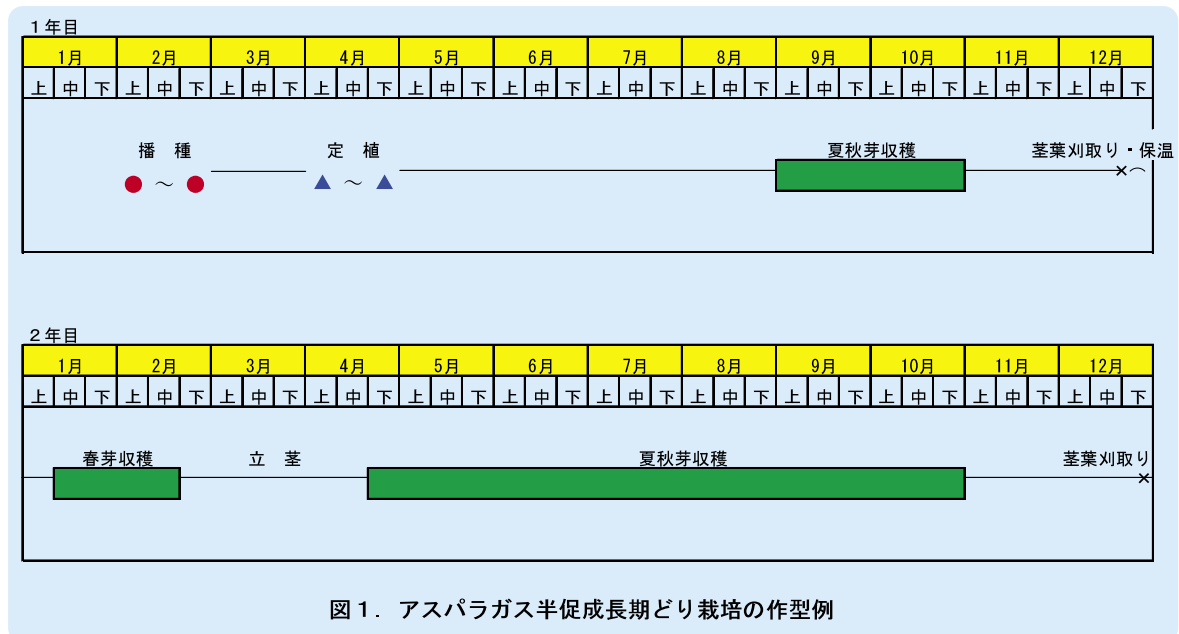


表1 アスパラガス半促成栽培における収量と上品率²⁾

時期 (月)	月別収量 ^{Y)} (g/株)					総収量 (kg/a)	上品率 (%)
	2L	L	M	S	合計		
2	18	75	54	31	178	39.6	96
3	0	2	1	3	6	1.4	69
4	0	0	0	1	1	0.2	100
5	23	71	39	15	148	32.9	89
6	10	97	69	30	206	45.6	74
7	25	171	104	66	366	81.4	79
8	3	135	125	106	369	82.2	80
9	0	54	99	136	289	63.9	84
10	0	11	45	87	143	31.9	84
合計	79	616	536	478	1,706	378.8	83

2) 2005年6月9日定植。30cm株間。品種：ウェルカム。収穫期間2006年2月1日～2006年10月31日。10株調査。

Y) 高知県園芸連上品階級規格（2006年12月まで）（g/本）2L：30g以上、L：19～29g、M：13～18g、S：7～12g。



写真 収穫期を迎えたアスパラガス

アスパラガスの栽培はもともと北海道や長野県などの寒冷地で盛んでしたが、近年では九州などの西日本でも半促成長期どり栽培が行われるようになりました。一方、平成16年度に当センターで実施した消費者調査では、アスパラガスは最も有望な品目のひとつであることがわかり、県内でも産地化への取り組みが始まりました。

そこで、アスパラガスの半促成長期どり栽培技術の県内への適応性を検討しました。雨よけハウスに定植した試験では、2006年1

月18日から保温（2重被覆）を開始すると、2月1日から収穫が始まり、10月末までの総収量は378.8Kg/aで、上品率83%という結果が得られました（表1）。

今後は、3年目以降の生育や収量を調査するとともに、さらに増収させるための栽植密度や摘心方法、品種などについて検討を進めていきます。

（営農システム担当

重田 雅教 088-863-4918）